

コミュニティ壬生野 第41号

壬生野地域まちづくり協議会広報

2008 (平成20) 年10月1日発行

第4回壬生野まつりに来てね。!!

いよいよ、お待ちかねの「壬生野まつり」を開催します。多くの皆様方のご来場をお待ちしています。

◇開催日時：10月5日（日）午前9時から午後3時まで

◇開催場所：伊賀市立壬生野小学校体育館

◇プログラム

コーナー	主 な 内 容
応募作品の 展示	絵画、写真、工芸、墨絵、生け花、手芸、盆栽、俳句、川柳 着物リフォーム、トランプ、型紙、保育園の部、小学生の部
健康チャレ ンジ	健康検査（体脂肪、血圧、脈拍など） AED体験（午後）
餅つき	今年も地元米で昔風の餅つきを行います。 第1回：10時頃 第2回：11時頃 第3回：13時頃 第4回：14時頃
即売会	新鮮な野菜、玉子、牛乳などの販売（売切れしだい終了）
異国文化と の交流	舞台上でブラジル人の楽器演奏と交流、民族楽器の体験 ワンポイントポルトガル語講座 1908年（明治41年）の笠戸丸に始まり、今年6月18日、 ブラジル日系移民は100周年を迎えました。これを記念として、 ブラジル日系移民に関するパネルを展示します。
サロン	お茶、コーヒー、梅ジュース、 ラミネート加工によるシオリづくり体験

※できごとウォッチング※

第33回いがまち人権・同和教育研究大会が開催されました

去る8月22日（金）、ふるさと会館いがにおきまして、いがまち人権・同和教育研究会主催による標記の大会（全体会）が開催されました。

この大会は、部落問題をはじめとするさまざまな人権問題に対する理解と認識を深め、人権感覚と実践力を培うための意見交換や実践交流の場として、22日（金）全体会、23日（土）分科会、分散会が開催されました。

全体会では、開会行事に続き、劇団まえがわ座による記念公演「人権劇 あなたはどんな生き方をしますか」が上演されました。



劇の舞台は、30年前、部落に住む花子の家に遊びに来てくれるはずの友だちが、いくら待っても来てくれないという事件から始まります。明るる日、花子は、学校で友だちから、「家の人が花子の家に行ってはいけない」と言われたことを聞かされます。不思議に思った花子は、家族にこのことを話し、そこで、初めて部落差別という言葉を知りました。

時は流れて、大人になった花子、結婚相手に部落出身であることを告白します。

しかし、部落出身であることを理由に、結婚相手の家族から反対されます。何度も説得しますが、許してくれません。それでも二人は、親の反対を押し切って、結婚します。結婚してからも、花子は、機会があるごとに実家の親に部落差別について話をしています。



ある地区懇談会で、「差別されるのは、部落の人の責任」という意見を正面から捉え、その場でただしていく部落の親の姿に感銘を受け、花子は「親の会」を組織し、差別のことを正しく知ってもらおうと活動を始めます。

劇団まえがわ座は、子どもには、差別を受けさせたくないという強い思いで活動している仲間が集まって、劇団を立ち上げました。この劇のタイトルである「あなたはどんな生き方をしますか。」の意味は、あなたは、差別をする側ですか、差別をなくす側ですかと、問いかけています。差別をする人がいるから、差別をされる人がいるのです。差別をされる理由はなく、差別する方が間違っているのです。

2日目は、「差別のない明るい住みよいまちづくりをめざして」～家庭・地域・学校とともに～と題して、いがまち公民館ホールでは、部落解放同盟前川支部女性部、西柘植まちづくり協議会、柘植小学校から、霊峰中学校では、人権・同和教育問題地区別懇談会モデル事業に昨年度、一昨年度取り組んだ7区からの実践報告がありました。

なお、壬生野地域からは川西区、川西青葉台区が報告しました。



壬生野小学校で運動会が開催される

9月21日(日)に、壬生野小学校運動場において、運動会が行われました。台風などの影響もあり心配された天候でしたが、プログラムの入れ替えなどをしながら、すべての競技を実施することができました。

徒競走、低・中・高学年リレー、表現運動、全校児童の綱引き、さくら会競技『みんなではこボール』、色別応援など、子どもたちは家族や地域の人々の声援を受けながら精一杯演技することができました。特に表現運動では、繰り返し練習した成果を発揮することができました。



ヤマギシだより

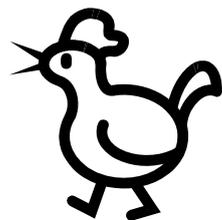
春日山実顕地は、昭和33年「山岸会式百万羽科学工業養鶏」構想に参画した人々の理想顕現の場として発足して、今年で50周年になります。

当時として他に類を見ない百万羽の養鶏工場を創るということで、各地の自治体が百万羽誘致にしのぎを削り、ほぼ鈴鹿市に決まりかけていたのが、最終的に春日山に逆転決定したそうです。それは、当時の壬生野地区の方々の百万羽誘致に対する熱い思いが、伝わったからだと聞いています。

ところが、その後「さあ、これからだ」という矢先の山岸会事件、伊勢湾台風による被害、鶏舎の火災、山岸巳代蔵^{みよぞう}の死、経済的困窮など、悪条件が重なり、生活するのが精一杯の暮らしが続き、理想に燃えて、財産ぐるみ投げ出して集まった人達も、理想と現実との矛盾に直面する日々

に沢山の人々が春日山から離れていきました。しかし、ある意味では、最悪の条件に耐え得る人生のあり方を身をもって体得してきた人達が残り、今日の春日山が存在しているとも言えそうです。

50年経過した現在は、壬生野地区の方々と、まちづくり協議会の活動を始め、田圃の稲藁と堆肥の交換、小中学校の農業体験、保育園の遠足、害獣駆除、春まつりや生産物の販売など、様々な交流がなされています。



10月12日(日) 勝手神社「例大祭」が開催されます

山畑の勝手神社の例大祭が、10月12日(日)に開催されます。従来、この祭りは、10月10日の体育の日に開催されていましたが、体育の日が10月第2月曜日に変更されたことに伴い、例大祭は、10月第2日曜日に変更されました。

また、祭りの前夜には、角力(すもう)が、奉納されるほか、氏子青年会による夜店(フランクフルト、ポップコーンなど)が開かれる予定です。



勝手神社秋の大祭 2007.10.07



★ 目の疲れとは？

たくさんの書類とのにらめっこやパソコン操作による目の酷使以外にも、夜遅くまでの残業や睡眠不足からくる身体の疲れ、肩に重くのしかかる責任感やイライラからくる精神的なストレスもあります。

正しいメガネを使って、姿勢や明るさに気をつけても、根をつめて何時間も続けて読み書きや細かい作業をするのはよくありません。たとえ3時間の作業をしなければならぬ時でも、続けて3時間する場合と1時間ずつに分けて間に10分ずつでも目を休める時間をとるのとでは、目に対する負担が大きく違ってきます。時間がある時はぼんやりすることも大切です。

昔からよく言われている、遠くの山を見ることは目にとってよい休養になります。遠くの景色、できれば樹々の緑がいいのですが、ぼんやり眺めて下さい。このとき精神的にもぼんやりすることが重要です。

★ 目の疲れを防ぐために

① 自分の視力を確認する。

遠くの視力だけでなく、読み書きの時、つまり30cm位の距離の視力が特に重要です。

メガネが自分の視力に合っていないと、目に負担がかかるので、正しいメガネをかけましょう。

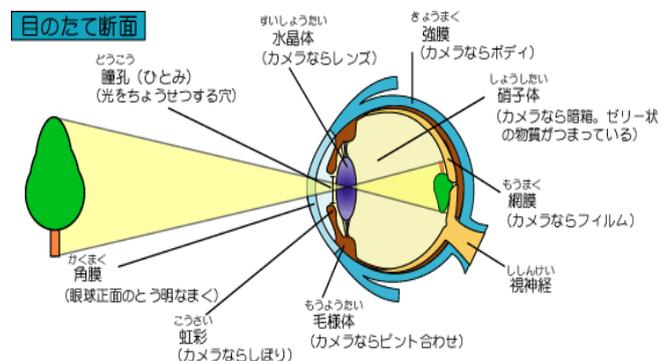
② 姿勢

姿勢が悪いと、目が疲れやすくなったり、首や肩に負担がかかり、「目の疲れ」の症状を起こしやすくなります。机や椅子の高さを身体に合せて調節しましょう。

③ 机の上の明るさ

明るすぎても暗すぎてもよくありません。暗いのはよくありませんが、直射日光の下での読み書きも目に悪影響が出ます。また、パソコンの作業には、キーボードの高さやディスプレイに背景が映り込まないように気をつけましょう。

目はどうして見えるの？



ときめきサロン

まちづくり協議会の発足後、土曜日の午前中にオープンしていましたが「ときめきサロン」は、10月、11月をお休みとさせていただきます。

今後は地域の皆様方がもっと参加していただきやすいよう工夫をしていきますので、どうぞよろしくをお願いします。

編集後記

『壬生野まつり』の開催が迫ってきました。ひとりでも多くの方々にお出かけしていただくことを願っています。このイベントを通して、多くの人々と交流し、絆をつくり、人と自然を愛し、誇れる郷土を育てていこうではありませんか。

投稿 中林 正則

◇◇◇ご意見・お問い合わせは下記までお寄せ下さい◇◇◇

発行 壬生野地域まちづくり協議会 広報公聴実行委員会
事務局 三重県伊賀市川東 1659-5 壬生野福祉ふれあいセンター内
Tel・Fax 0595 (45) 6270 E-mail tokimeki@ict.ne.jp URL <http://www.mibuno.net>